



心を込めて笑顔で語りかける白石さん

輝いています

ひと

紙芝居の会ケセランパサラン代表

しら いし はる え
白石 春枝 さん

紙芝居で心通わす喜びを

「紙芝居の会ケセランパサラン」の紙芝居を楽しみに、毎月第2・4土曜日、図書館にはたくさんの子供たちが訪れます。会の代表を務める白石春枝さん（84歳・中央2丁目）が演じる紙芝居は、優しい語り口で子どもたちから大人気。入会以来12年、その魅力を伝え続けています。

入会のきっかけは、会で紙芝居の先生だった田中和子さんの講演会でした。そこで、戦時中に紙芝居が戦意高揚のために用いられ、そのことが戦後の裁判で問題視されたという事実を知り、ショックを受けた白石さん。その一方で、紙芝居の実演を見て、子どもの頃の記憶がよみがえり、み

んなが一体となってお話を楽しむ雰囲気魅了され、入会を決意しました。

初めは上手に読むことがわからずにいましたが、勉強会で先生から「派手な演技より、良い作品を選び、作者の真意が伝わるように演じる」との助言を受け、作品を丁寧に読み込み心を込めて演じるように。すると、自然とみんな作品を共有する心地よさを実感できました。入会以来図書館などでの定期公演を続け、最近では小学校の読み聞かせボランティアを行うなど活動を広げてきました。白石さんがよく演じるのは、「みんなでぼん！」（まついのりこ作・絵童心社）。演じ手も観客も「ぼん！」と声を出し、手をたたいて参加します。最初は不安げだった子が、最後には目を輝かせて手をたたくようになるお気に入りの作品です。

「紙芝居で周りの人と心を通わす体験を通じて、子どもたちの他人を思いやる心を育てたい。そして、紙芝居が戦争ではなく平和のために広がっていったらうれしい」と目標を語る白石さん。これから子どもたちのために、さまざまな紙芝居を届けていきます。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.102—



『晩斎百鬼画談』より「骸骨の軍団」 明治22年8月 版本

河鍋晩斎記念美術館 開催中

企画展「画鬼晩斎 妖怪画コレクション」展
同時開催 特別展「『晩斎醉画』の世界」展

開館＝午前10時～午後4時

休館＝火・木曜日、26日～末日

ところ＝南町4-36-4

入館料＝一般600円 高校生・大学生500円

小・中学生300円 65歳以上500円

※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください

詳細＝同館 ☎441・9780



詳しい内容は美術館のホームページをご覧ください



本図は晩斎が明治22年（1889）4月に没した年の8月に出版された『晩斎百鬼画談』の、最初に「百鬼」が登場する場面です。武者姿の骸骨や人面馬、骸骨紋を刻した矢盾などが描かれていることから、骸骨たちは合戦をするために集まっているようなのですが、その表情はど

こかユーモラスです。本図の次には、化け物の集団が、骸骨たちと睨み合うような構図で向かい合っているように描かれており、これから骸骨軍と妖怪軍の戦いが始まるのが想像されます。

yosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎
天保2年（1831）
～明治22年（1889）